

香川の 土地改良

発行所
香川県土地改良事業団体連合会
高松市番町五丁目1番29号
TEL (087) 832-7140
FAX (087) 832-7150
<http://www.midorinet-kagawa.or.jp/>



集落営農推進生産基盤整備事業笠田長池地区・笠田土井地区（三豊市）

目次

1. 新年のご挨拶	香川県土地改良事業団体連合会 会長 大山茂樹2
	全国土地改良事業団体連合会 会長 二階俊博3
	都道府県土地改良事業団体連合会会長会議 顧問 進藤金日子4
	都道府県土地改良事業団体連合会会長会議 顧問 宮崎雅夫5
	四国土地改良調査管理事務所 所長 前田 茂6
	香川用水二期農業水利事業所 所長 山田和広7
	香川県農政水産部 部長 国分伸二8
	香川県農政水産部 次長 小山輝己9
	香川県農政水産部農村整備課 課長 井川一郎10
2. 本会第2回監事会開催／本会第185回理事会開催	11
3. 農業農村整備関係の令和元年度補正予算及び令和2年度予算の概算決定	12~13
4. 山南営農組合の歩み／多面的機能支払交付金に係る抽出指導実施	14
5. 土地改良区だより 男井間池土地改良区	15
6. 会と催し	16



新年のご挨拶

香川県土地改良事業団体連合会

会長 大山茂樹

明けましておめでとうございます。

会員各位をはじめ、農業農村整備事業関係者の皆様におかれましては、令和になって初めてのお正月を健やかに迎えになられたこととお慶び申し上げますとともに、日頃から本会の運営に対しまして格別のご支援とご協力を賜っておりますことに、改めて厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、全国で台風19号の豪雨災害等により、甚大な被害が発生いたしました。亡くなられた方々のご冥福を衷心よりお祈りいたしますとともに、被災をされた多くの方々にお見舞いを申し上げます。併せまして、復旧・復興に日夜ご尽力いただいている皆様に深く敬意を表します。

また、5月には元号が「平成」から「令和」へ移行する節目を迎え、10月には消費税が増税されるなど、新しい時代の流れを感じる年でもありました。なかでも、7月の参議院議員選挙では、都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問の宮崎雅夫氏が、現職候補者がひしめくなか見事に当選を勝ち取りました。進藤金日子参議院議員と「車の両輪」となる土地改良の代表を、12年ぶりに国会に送ることができましたことは、土地改良関係者の熱意と団結力を全国に示したものと思います。

その土地改良では今、改正土地改良法が公布され一年が経過し、法に基づく貸借対照表の作成に向け、土地改良区が管理する施設の資産評価を行っておりますが、国による財政的な支援や会計ソフト開発の支援等があるものの、人的及び財政的環境が厳しい土地改良区においては、不安の多い状況となっております。

さらに、豪雨災害の対策として、「農業用ため池の管理及び保全に関する法律」が昨年7月に施行され、民間所有のため池で多大な被害が予想されるため池の届出が義務付けられるなど、防災・減災を図る施策が進められております。そして、このような土地改良施設の保全管理に対する施策を進めるにあたり、香川県土地改良事業団体連合会では、水土里情報をベースとした管理体制の確立に向け努力してまいりたいと考えております。

国の予算については、必要額獲得のため「闘う土地改良」を合言葉に全国の土地改良事業関係者及び関係団体が丸となり、努力を重ねたことが実を結び、令和元年12月20日に閣議決定された令和2年度農林水産予算概算決定において、農業農村整備事業予算は、農山漁村地域整備交付金の農業農村整備分及び非公共事業である農地耕作条件改善事業と合わせると4,433億円（「臨時・特別の措置」を除く前年度比15億円増）と、厳しい予算折衝の中で増加の予算確保を実現いたしました。

また、本年日本で開催される東京オリンピック・パラリンピックは、我が国にとって歴史的な大きなイベントであることから、日本経済のみならず農業・農村に波及効果をもたらすことを期待しているところであります。

本会といたしましては、土地改良区による農業農村の防災・減災対策等のための農業水利施設などの更新・維持管理を中心に、香川県が目指している「農業の持続的発展と笑顔で暮らせる農村の実現」に向け、会員並びに関係者の皆様とともに、各種事業の着実な推進に努めてまいりますので、変わらぬご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

結びに、皆様方より一層のご健勝とご活躍を心からご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。



新年にあたって

全国土地改良事業団体連合会

会長 二階俊博

令和2年の年頭に当たり、土地改良に携わる全国の皆様に、謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

昨年は、6月、8月の大雨、さらに台風第15号、第19号による暴風雨等により、全国各地で非常に多くの災害が発生しました。お亡くなりになられた方々のご冥福を心からお祈り申し上げますとともに、被災をされた多くの皆様に、衷心よりお見舞いを申し上げます。

また、復旧・復興のために、被災地の最前線に立って日夜ご尽力頂いている多くの土地改良関係の皆さまに心から敬意を表しますとともに、厚く御礼を申し上げます。

さて私は、本会の会長に就任して以来、「闘う土地改良」を掲げて参りました。そして組織一丸となって闘った結果、平成から新しい元号「令和」となる大きな節目の年に、補正予算などを含めまして、大幅削減前を大幅に上回る予算を確保することが出来ました。

令和2年度予算につきましては、農業農村整備の着実な推進を求める全国の皆様からの熱意ある要請活動により、政府予算案においては、昨年度当初予算を上回る4,433億円を確保することができました。さらに、令和元年度の補正予算・臨時特別措置枠を含めると6,515億円となります。皆さまの活動に深く敬意を表しますと共に、心から御礼を申し上げます。

また、昨年7月の参議院選挙におきましては、宮崎雅夫君が強豪ひしめく厳しい闘いの中、見事、勝利を勝ち取りました。進藤金日子参議院議員とともに、土地改良にとって実に12年ぶりの「車の両輪体制」が実現したわけです。

このように土地改良は、新しい元号「令和」の幕開けにふさわしいスタートを切ったわけであります。これも一重に「闘う土地改良」の旗印の下、組織一丸となって闘った結果であり、皆様方の御協力の御陰であります。

今、全国の農業農村では、過疎化・高齢化、担い手不足に加え、地域活力の低下などの課題が山積しております。また、コメなどを巡る先行き不安から、状況が一段と厳しくなっております。一方で、全国で農業水利施設の老朽化が進行しており、食料生産の増大、非食料用米への転換に支障を来すばかりでなく、国民の生命や財産にも多大な損害をもたらすのではないかと危惧されております。特にここ数年は大規模な風水害により、農地・農業用施設でも大変大きな被害が続いており、平成30年の7月豪雨では、全国で32カ所のため池が決壊し、尊い人命も犠牲になるなど未曾有の被害が発生しました。

これらの農業農村の危機的な事態に鑑み、2年続けて土地改良法が改正されるとともに、老朽化したため池の整備について抜本的な施策を講ずるため、長年の懸案であった「農業用ため池の管理及び保全に関する法律」が国会で成立、施行されました。さらに今、政府・与党では「食料・農業・農村基本計画」の見直しも議論されているところであります。

私たち土地改良担当者としましては、これら政府の動きと軌を一にして、これまで培ってきた技術と蓄積された経験を活用し、「闘う土地改良」を活動の基本におきつつ積極的に貢献していくことが重要であると考えており、加えて、水土里ネットが農業農村を守り、発展させていくことの重要性について広く国民の皆様々にアピールし、共感を得ていく努力が必要と考えます。皆様と一体となって取り組み、所期の成果が得られますよう、引き続き奮闘して参りたいと思います。

最後になりますが、本日、輝かしい年の初めに当たり、本年も農業農村が活力を得て、一層発展しますようご期待申し上げますとともに、本年が全国の皆様にとってよき年であり、日々健やかに過ごされますようご祈念申し上げます、私の新年のご挨拶といたします。



新年のご挨拶

都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問

参議院議員

進藤 金日子

新年明けましておめでとうございます。皆様には輝かしい新年を迎えられたことと心からお慶び申し上げます。昨年は、「令和」の御代に移り、多くの国民が寿ぐ中で天皇陛下が御即位されました。「令和」の時代が平和で穏やかであるようにあらためてご祈念申し上げる次第です。他方、昨年も多くの自然災害が発生しました。被災された全ての方々に心からお見舞い申し上げます。今年こそは災害の無い年になるように祈念して止みません。

今年、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、総務大臣政務官としての私の担務である「国勢調査」（初回開始後百周年）も行われます。多くの国家的な行事の成功に向けて、皆様のご理解とご協力をお願い致します。

さて、昨年末に令和元年度補正予算と令和2年度当初予算の政府原案が閣議決定されました。土地改良予算としては、総額で6,515億円（対前年度比64億円増）を確保できました。これも偏に、農業の競争力強化と美しい農山村の形成に不可欠な土地改良の実施に向けての現場からの強い要請と関係者の皆様の熱意を政府と与党にしっかりと受け止めていただいた結果です。貴重な予算が一日も早く現場に届くよう、今次通常国会で早期成立に向けて努力してまいります。

今回の予算の特徴は、引き続き「国土強靱化」に重点が置かれたこと、水田の高度利用対策が更に重点化されたこと、農業の競争力強化に加えて中山間地域等の条件不利地域の振興対策が手厚く措置されたことだと捉えています。予算の増額措置により土地改良が更に促進されますが、貴重な予算を効率的、効果的に執行し、土地改良に対する国民の皆様の期待に応えていくことが重要です。

昨年末、自民党農村基盤整備議員連盟総会において、ため池の整備促進を図る特別措置法を議員立法として検討することが提案・了承されました。ため池の保安全管理を図る法律は、昨年制定・施行されましたが、整備促進に関する多くの課題が現場から提起されています。現場の実態に真摯に耳目を集めつつ検討を深め、与野党問わず多くの国会議員のご理解を得るべく努力してまいります。

香川県においては、大小合わせ非常に多くのため池が存在しており、近い将来発生が懸念されている南海トラフ巨大地震への対策は待ったなしの状況ですが、老朽ため池の整備、ため池の耐震点検や耐震化整備等、総合的な防災・減災対策を早急に、かつ計画的・積極的に推進することが喫緊の課題であると認識しております。また、ため池の防災・減災対策は、土地改良施設としての保全是もとより、人命・財産の保全という面でも極めて重要であり、これを着実に進めていく必要があると考えています。

今後も「農業の持続的な発展と笑顔で暮らせる農村の実現」を基本目標とする香川の農業を後世に伝えるため、農業の生産基盤及び農村の環境基盤と合わせたため池等の水利施設の整備の推進に努め、本年も引き続き皆様と一緒に諸課題の解決に向けて専心努力してまいります。

本年が皆様にとってご家族共々素晴らしい一年となりますよう心からお祈り申し上げ、新年の挨拶いたします。



「闘う土地改良」－未来への礎を築くために

都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問

参議院議員

宮崎 雅夫

新年明けましておめでとうございます。

香川県の土地改良関係の皆様におかれましては、穏やかな新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、私にとっての昨年は大きな前進の年でありました。一昨年の1月から、土地改良の推進、農山漁村の振興のため、地球8周分に当たる30万キロ以上を移動しながら全国各地をお伺いし、地域の状況を自分の目で見て、皆様からのご意見を自分の耳で聞き、私の考えを自分の口で話をさせていただくなどの政治活動を行ってまいりました。香川県の皆様をはじめ全国の皆様からご支援をいただき、お陰様をもちまして昨年7月末の参議院議員通常選挙において当選の栄に浴することができました。

当選後、8月1日に召集された臨時国会で初登院し、10月4日に召集された臨時国会では、農林水産委員会、決算委員会、地方創生及び消費者問題に関する特別委員会、資源エネルギーに関する調査会に所属しております。農林水産委員会等で3度質問に立たせていただき、土地改良の推進や予算の確保などこれまでの活動中皆様から頂いたご意見を私の質問として農林水産大臣等にしっかり伝えました。党での各種部会での発言なども含め、皆様と国政を繋ぐパイプとしての役割を果たせるよう日々努力してまいります。

昨年も残念ながら台風19号をはじめ一連の自然災害により、農地や農業用施設も全国各地で大きな被害が広範囲で発生いたしました。早期の復旧はもちろんですが、土地改良の農村で果たす大きな役割を踏まえ、防災・減災、国土強靱化の取り組みを強力に進めていかなければなりません。

特に香川県ではため池の密度が日本一でもあり、ため池の耐震対策・豪雨対策などのハード面やハザードマップの整備などのソフト面の対策は待ったなしです。政府の「防災・減災、国土強靱化のための3カ年緊急対策」による集中的な取り組みが終了する令和2年度以降も更に取り組みが促進するよう全力で取り組んでまいります。

そして、それぞれの地域農業が発展するための基礎となる基盤整備は、着実に進めていかなければなりません。省力化だけではなく若者の興味も高めるスマート農業は平地のみならず中山間地も推進していく必要があります。そのためには情報基盤の整備を含め基盤整備は欠かすことのできないものです。

これらの計画的な実施には、土地改良予算の安定的な確保が必要不可欠です。皆様からの大変大きなご支援により、令和2年度は、令和2年度当初（臨時特別の措置を含む）と令和元年度補正とあわせて6,515億円を確保することができました。今後ともこの流れを止めることのないよう尽力してまいります。また、産業政策だけではなく、家族農業や中小規模の農家、兼業農家の役割を再確認しつつ、地域農業、農村集落自身を守っていくための地域政策をバランスよく実施していかなければなりません。農政の基本となる食料・農業・農村基本計画の5年に一度の見直しが進められていますが、その中にもしっかりと位置づけられる必要があります。

私は「土地改良、農山漁村は未来への礎」と訴えてまいりました。令和の新しい時代に皆様のご意見を伺いながら土地改良を推進することにより、世界に誇る我が国のすばらしい農山漁村を子供たち孫たちに引き継げるよう、先輩の進藤金日子参議院議員と力を合わせて努力をしてまいります。12年ぶりに土地改良二人体制となり、人口減少社会に突入した我が国の状況を踏まえ、土地改良も必要な見直しも大胆に進めていきたいと考えております。また、農村女性の創造力や企画力、行動力などは、これからの農村振興を加速する重要な原動力と考えています。昨年5月には「かがわ水土里ネット女性の会」が設立されたところであり、今後の活発な活動に私もお手伝いをさせていただきたいと思っています。引き続き進藤議員と私にご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願いいたします。

今年は、2020東京オリンピック・パラリンピックが開催され、更に多くの外国人の方が日本に来られることが期待されています。日本の農業、農村のすばらしさを皆様どんどん発信してまいりましょう。最後に、本年が皆様にとってよりよい一年となりますようお祈り申し上げ、年頭のあいさつといたします。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



新年のご挨拶

中国四国農政局四国土地改良調査管理事務所

所長 前田 茂

明けましておめでとうございます。

会員の皆様方におかれましては、日頃から香川県内の農業農村整備事業の推進にご理解ご尽力を賜り、心より感謝申し上げます。

四国土地改良調査管理事務所は、平成11年に徳島市から丸亀市(旧飯山町)に移転し、四国管内における農業農村整備事業の円滑な推進を図るため、①国営土地改良事業の実施に関する調査、②国営土地改良事業によって造成された施設の管理に関する事務を担当しています。

香川県におきましては、香川用水地区の国営造成施設のうち香川用水二期事業で整備対象としていない施設の機能診断調査を平成30年から実施しているところです。引き続き関係の皆様のご協力を頂きますようよろしくお願い致します。

昨年12月10日に安倍首相をトップとする「農林水産業・地域の活力創造本部」は「農業生産基盤強化プログラム」を決定しました。これに基づく取組を重点的に推進することで、強い農業・農村を構築し、農業者の所得向上を実現するとしています。農業農村整備事業は「水田農業における高収益作物等への転換」、「棚田を含む中山間地域の基盤整備と活性化」、及び「激甚化する自然災害への対応の強化」等の取組において表現されています。

香川県では農業生産基盤強化プログラムに基づき、これまでの次の取組を更に発展させていくことが期待されます。

- ・農地の集積・集約やスマート農業と連携した米、小麦の収量・品質向上
- ・基盤整備と営農や流通などと連携した水田での野菜や果樹などの高収益作物の導入
- ・中山間地域の特長を活かした営農を確立するための基盤整備と生産・販売施設等の一体的整備
- ・激甚化する台風や地震等に備え、農業水利施設の計画的な整備・改修

昨年12月20日に閣議決定されました農業農村整備事業関係予算は令和2年度当初(臨時特別の措置を含む)と令和元年度補正とあわせて6,515億円が確保される見込みとなっています。これらの予算を計画的・効率的に活用し、香川県の取組を発展させていくことが可能と考えております。

こうした政府の方針に基づき、当事務所といたしましても、香川県をはじめとしたそれぞれの現場において農業農村整備事業の円滑な推進を図るために皆様と連携し、国民の期待や信頼に応えていく所存です。

引き続き、本年も皆様方のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、会員の皆様方のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げまして、新年のご挨拶といたします。



新年のご挨拶

中国四国農政局香川用水二期農業水利事業所
所長 山田和広

新年明けましておめでとうございます。

令和2年の新春を迎え、謹んでご挨拶を申し上げます。

香川県土地改良事業団体連合会会員の皆様方には、平素より国営かんがい排水事業「香川用水二期」の事業推進に格段のご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。また、工事実施に際しては、関係の土地改良区や水利組合、市町、県出先機関、(独)水資源機構香川用水管理所の皆様方に大変なご尽力をいただいておりますことに、心より感謝を申し上げます。

香川用水二期農業水利事業では老朽化した幹線水路等の改修を進めておりますが、令和2年で7年目を迎えます。東部幹線水路につきましては高松市、三木町での工事をほぼ終えて、令和2年にはさぬき市での工事がはじまります。西部幹線水路につきましては、三豊市山本町と観音寺市栗井町でサイホン等の工事を、高瀬支線用水路につきましては、三豊市豊中町の高速道路周辺の管水路の改修を予定しております。

昨年12月に、令和元年度補正予算と令和2年度予算(臨時・特別の措置を含む)の政府案が閣議決定されており、その中で農業農村整備事業関係予算については合計で6,515億円と、農業の競争力強化や農村地域の国土強靱化をはじめとする施策の実現に向けて大幅に強化された内容となっております。今後、国会審議を経て予算成立後に各事業地区への割当がなされますが、当地区におきましても割り当てられる予算を有効に活用し、関係の皆様と連携して工事を着実に進めてまいります。

また、昨年は田中小学校(三木町)において、香川用土地改良区とともに香川用水の成り立ちや学校近くの水路等について説明を行いました。広報活動の一環として、工事を行った近隣の小学校への出前事業として行ったもので、今後も機会がある毎に香川用水の大切さを広報していきたいと考えております。工事の様子が見たい知りたいなどの声がありましたら、当事業所や香川用土地改良区まで御一報いただければ幸いです。

昨年度は4月から6月には渇水対策が行われましたが、一転して、7月から10月にかけては全国で台風や豪雨による大規模な災害が続きました。南海トラフ地震の近い将来の切迫性も指摘されています。安定した農業生産と生活を支える基盤がきちんと機能するよう、適切な管理を日頃から行うとともに、既にある施設についての整備もしっかりと続けていくことが重要だと、思いを新たにしています。

本年も当事業所では職員一丸となって香川用水の改修工事を着実に進めてまいります。引き続き皆様方の一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、貴連合会のますますのご発展と会員皆様方のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

香川県農政水産部

部長 国分伸二

新しい時代、令和初の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日頃、香川県土地改良事業団体連合会会員の皆様方には、農業農村整備の推進はもとより、県政各般にわたり格別のご理解とご支援を賜り、深く感謝申し上げます。

ご承知のとおり、農業・農村は、県民の皆様のご食生活に欠かせない農産物の安定供給に加えて、県土や自然環境の保全、安らぎのある農村環境の形成などの多面的機能を有しており、県民生活において重要な役割を果たしております。一方で、農業従事者の高齢化や混住化の進行、耕作放棄地の増大や消費者ニーズの多様化など、農業農村を取り巻く環境は大きく変化しています。このような状況の中、農業競争力を高め、農村地域を守り、農業を持続的に発展させていく上で、農家が将来にわたって安心して農業に携われるよう生産基盤を強化していくことは必要不可欠であると考えております。

このような中、国においては、農政改革のグランドデザインである「農林水産業・地域の活力創造プラン」に基づき、若者たちが希望の持てる「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」を実現するため、農林水産業と地域の活性化を表裏一体で進めていくこととしています。

また、昨年7月には、農業用水の確保とともに、豪雨や地震によるため池の決壊被害を防止するため、所有者などに農業用ため池の届け出を義務付ける「農業用ため池の管理及び保全に関する法律」を施行し、ため池の適正管理につなげることとしています。

一方、県では、社会情勢の変化や国の施策を踏まえつつ、「香川県農業・農村基本計画」に基づき、「農業の持続的な発展と笑顔で暮らせる農村の実現」を基本目標に、積極的な施策展開を図ってまいります。なかでも、農業農村整備については、大雨や地震などの自然災害に備えた、ため池の総合的な防災・減災対策をはじめ、担い手のニーズや地域の特性を生かしたほ場整備や農業用水のパイプライン化、老朽化した農業水利施設の適時的確な補強・補修による長寿命化対策など、農業を支える生産基盤の整備に努めてまいります。

さらに、県土の保全や水源のかん養など、農業・農村が有する多面的機能の維持・発揮に向けて、農業者や地域住民等が共同して行う多面的機能支払事業を支援するなど、新しい時代の幕開けとともに、「農業の明るい未来」を確かなものとするため、一步一步、地に足をつけて、力強く各種施策を展開してまいります。

これら事業を円滑に推進するためには、貴連合会の皆様方の一層のご支援、ご協力がますます重要になりますので、今後とも、よろしくご支援申し上げます。

結びに、貴連合会の益々のご発展と、会員皆様方にとりまして、本年が希望に満ちた明るい年となりますよう心から祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



令和初の新年にあたり

香川県農政水産部

次長 小山 輝 己

令和2年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日頃、大山会長をはじめ会員の皆様方には、農業農村整備事業の推進はもとより、県政各般にわたり格別のご協力とご支援を賜り、厚くお礼を申し上げます。

さて、昨年、農業農村整備の関係では、土地改良区の運営体制の強化に向けた改正土地改良法が4月に、また、一昨年の7月豪雨災害におけるため池の決壊を教訓に、農業用ため池の管理及び保全に関する法律が7月に施行されたところでもあります。一方で、昨年も台風19号、21号などによる甚大な災害にも見舞われたところでもあります。

こうした中、国においては、昨年12月、令和2年度農業農村整備事業予算案として、農業競争力の強化のための強い農業基盤づくり、国土強靱化のための農業水利施設の長寿命化や農村地域の防災・減災、更には、農山漁村の活性化に向け、臨時・特別の措置予算を含む4,973億円（前年度比100.2%）が概算決定され、補正予算と合わせ6,515億円の予算規模が示されたところでもあります。

一方、本県では、力強い担い手の確保・育成などとともに、強くしなやかな生産基盤の整備に向け、農地集積の促進、力強い農業を支える農地・ため池等の水利施設の整備など、担い手や地域のニーズ・特性に即した農業農村整備を積極的に実施しているところでもあります。

土地改良課では、強くしなやかな生産基盤の整備として、国営香川用水二期地区をはじめ農業水利施設の補修・更新等を行う長寿命化対策、また、老朽ため池の整備やため池の耐震化整備などため池の防災・減災対策を中心に事業を推進し、本県農業を支える生産基盤の条件整備と県土の強靱化に向けて引き続き取り組んでまいります。

特に、ため池については、「老朽ため池整備促進計画」（第11次5か年計画）に基づき、ため池の防災対策を推進しており、また、国の「今後のため池対策の進め方」に即して、市町のご協力のもと防災重点ため池を選定し、現在、市町において浸水想定区域図の作成が進められています。今後、ため池ハザードマップの作成や緊急連絡体制の整備などソフト対策を支援するとともに、引き続き、老朽ため池の整備や耐震化整備などハード整備を推進し、総合的なため池の防災・減災対策を計画的に取り組んでまいりたいと考えておりますので、皆様方の一層のご理解とご支援をお願いいたします。

併せて、土地改良区の貸借対照表の作成など改正土地改良法の適切な運用と、農業用ため池管理保全法の県民への周知をお願いするところでもあります。

結びに、貴連合会の益々のご発展と会員皆様方のご健勝とご多幸を心から祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

令和2年は、十二支の中で一番目に数えられる子年、蓄えたエネルギーのもとで新しく萌し始める年。『初春の令月にして 気淑く風和ぎ 梅は鏡前の粉を披き 蘭は珮後の香を薫す』（万葉集）から採られた「令和」初めての新年、「強くてしなやかな農業・農村」に心を寄せ合う一年となりますよう願うところでもあります。



新年のご挨拶

香川県農政水産部農村整備課

課長 井川 一郎

新年明けましておめでとうございます。

令和2年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日頃、大山会長様をはじめ、会員の皆様方には本県の農業農村整備事業の推進はもとより県政各般にわたり格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

ご承知のとおり、現在、人口減少や高齢化、担い手への農地集積の加速化等の農業・農村の構造の変化に伴い、基盤整備や農地・農業水利施設の保全管理など、我々土地改良に携わるものを取り巻く環境も大きく変化してきております。

このような中、国の農地面積の約4割を占め、食料生産の場としてのみならず、豊富な地域資源を有している中山間地域は、平地と比べて傾斜地などの条件不利性ととともに、人口減少・高齢化・担い手不足・鳥獣被害の増加等、厳しい状況となっております。このため、国においては、平成28年12月に「中山間地農業を元気にする委員会」を設立し、中山間地域の特色を活かした農業展開や移住・定住の促進等について、取組みを強化するとともに、昨年6月には「棚田地域振興法」を制定し、人口減少の著しい中山間地域対策について関係省庁が総合的に支援する枠組みが構築されたところです。

現在、本県の農業生産基盤の整備については、農地中間管理機構の活用や担い手への農地集積率に応じて農家負担が軽減される制度の拡充・創設などにより、整備要望が増加する一方、「中山間地域等直接支払」や「多面的機能支払」などの農地や農業用施設の保全管理については、農業従事者の高齢化等に伴い減少傾向にあります。このため、今後とも保全管理組織の維持強化とともに、農業生産基盤や担い手への農地集積・集約化、集落営農などを推進し、本県農業の持続的な発展に向けて積極的に支援してまいりますので、関係の皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

また、農村で暮らす人々の活性化対策として、従来から農村地域の景観や体験、食などをコンテンツとした、「グリーン・ツーリズム」に取り組んでまいりましたが、近年は農村の魅力あふれる地域資源と農家民宿を組み合わせた滞在型「農泊」の推進を強化しているところです。「農泊」は、急速に過疎・高齢化が進む農村地域において、空き室・空き家の活用とともに、増加する国内外の旅行者の農村地域への来訪による交流人口の拡大を図り、農村の活性化や農業者の所得向上に繋がる有効な地域施策でありますので今後とも積極的に推進してまいりたいと考えております。

結びに、貴連合会の益々のご発展と会員皆様方のご健勝とご多幸を心から祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

第2回監事会開催

12月18日、香川県土地改良事業団体連合会会議室において、令和元年度本会第2回監事会を開催した。

監事会は、全監事出席のほか本会会長、常務理事の立会いのもとに中間監査が行われた。

監査の結果、本会の予算執行状況並びに財務状況についていずれも適正に処理しているとの報告があり、全議案が承認された。



議案

- (1) 令和元年度中間監査実施計画について
- (2) 令和元年度予算執行状況及び財務状況報告について
- (3) 令和元年度一般会計収支補正予算について

第185回理事会開催

12月23日、香川用水記念会館1階多目的室において、本会第185回理事会を開催した。

冒頭、大山会長から、11月の農業農村整備の集い、予算要望活動などに関する報告のあと、連合会として政府に対し、農業農村整備事業当初予算の必要額確保に向け引き続き取り組んでいくこと、また、農村地域の防災・減災対策やスマート農業等の先進技術の推進、土地改良法改正に伴う資産評価等について、ご理解・ご協力をお願いしたい旨の挨拶があった。

その後、豊島正人農政水産部次長からの来賓挨拶に引き続き、大山会長が議長となり、下記の2議案が審議され、いずれも原案どおり承認され閉会した。

議案

- (1) 香川県土地改良事業団体連合会職員給与規程の一部改正について
- (2) 令和元年度一般会計収支補正予算について



大山会長より挨拶



豊島農政水産部次長より挨拶

農業農村整備関係の令和元年度補正予算及び令和2年度予算の概算決定

12月20日、令和2年度政府予算案が閣議決定された。農林水産省の予算総額は対前年度比100.0%の23,109億円（臨時・特別の措置を除く）、このうち、農業農村整備関係予算の概算決定額は対前年度比112.6%の4,973億円となった。これに、令和元年度補正予算を加えると6,515億円（対前年度比147.5%）となる。

総括表

区 分	元年度 予算額	2年度概算決定額		元年度補正 追加額
		通 常 分	通常分のほか 「臨時・特別の 措置」	
農林水産予算総額 (対前年度比)	23,108 —	23,109 100.0%	1,008	5,849
1. 公共事業費 (対前年度比)	6,966 —	6,989 100.3%	1,000	2,991
一般公共事業費 (対前年度比)	6,770 —	6,793 100.3%	1,000	2,124
災害復旧等事業費 (対前年度比)	196 —	196 100.1%	0	867
2. 非公共事業費 (対前年度比)	16,142 —	16,120 99.9%	8	2,858

- (注) 1 金額は関係ベース。
 2 計数整理の結果、異動を生じることがある。
 3 計数は、四捨五入のため、端数においては合計とは一致しないものがある。

農業農村整備事業関係予算の概要

区 分	令和元年度 当初予算額	令和2年度概算決定額			令和元年度 補正追加額	合計 C+D
		「臨時・特別の措置」 を除く A	「臨時・特別の措置」 B	概算決定額 C=A+B		
農業農村整備事業 (公共) (対前年度比)	3,260 —	3,264 100.1%	511	3,775 115.8%	1,466	5,241 160.8%
農業農村整備関連事業 (非公共) (対前年度比)	508 —	508 100.1%	—	508 100.1%	14	522 102.8%
〔 農地耕作条件改善事業 農業水路等長寿命化・防災減災事業〕 農山漁村地域整備交付金(公共) (対前年度比)	650 —	661 101.7%	29	690 106.2%	62	752 115.7%
計 (対前年度比)	4,418 —	4,433 100.3%	540	4,973 112.6%	1,542	6,515 147.5%

「臨時・特別の措置」を除く 5,975 135.3%

- (注) 1 計数は四捨五入のため、端数において合計とは一致しない場合がある。
 2 令和元年度補正額はTPP等関連対策及び防災・減災、国土強靱化の更なる推進のための対策が対象。
 3 農業農村整備関連事業(非公共)における令和元年度補正額は、中山間地域所得向上支援事業の基盤整備分である。

令和2年度概算要求の概要

農業農村整備事業の令和2年度概算要求については、農業の競争力強化や農村地域の国土強靱化を図るため、農地の大区画化・汎用化や水路のパイプライン化、老朽化した農業水利施設の長寿命化や豪雨・耐震化対策等を推進するとともに、スマート農業の基礎インフラとして、先端技術の利用に必要な無線局等の整備、ICTを用いた水管理省力化技術の導入等を推進するため、3,775億円を要求。

農山漁村地域整備交付金の農業農村整備分及び非公共事業である農地耕作条件改善事業と合わせて、対前年比112.6%の4,973億円を要求。なお、これらに令和元年度補正予算1,542億円を加えると、対前年度比147.5%の6,515億円となる。

令和2年度概算要求 主要事業

○農地中間管理機構関連農地整備事業

農地中間管理機構による担い手への農地の集積・集約化を推進するため、基盤整備に係る事業費の12.5%等（全額国費）の推進費を交付

○農地耕作条件改善事業

リタイア農家が所有する農地等について機構を介して担い手に円滑に集約できるよう機構集積協力金交付事業に創設された農地整備・集約協力金（整備費の最大12.5%）を活用し、農業者の費用負担の軽減を図る。

○中山間地域農業農村総合整備事業【新規】

地域の収益力向上等により、中山間地域の特色を活かした営農の確立を支援するため、農業生産を支える農地の区画整理、農業水利施設・暗渠排水等の整備と、生産・販売施設や高収益作物の導入に取り組むための農業施設等の整備を一体的に実施。

○水利施設等保全高度化事業（農業競争力強化基盤整備事業）【拡充】

農業水利施設等の整備において、中心経営体への農地集積率の増加割合や高収益作物の作付面積の増加割合に応じて促進費を交付（最大で事業費の12.5%）

農業水利施設等の整備において、高収益作物の作付面積割合が5割以上の場合、農業者の費用負担分を支援（農業者の費用負担なしで整備が可能）

定率助成のソフト事業（老朽施設の点検、機能診断、計画策定、資産評価データ整備等）（令和2年度まで）

○農村地域防災減災事業【拡充】

計画策定、耐震照査に係るため池諸元の詳細情報整備への支援並びに定額助成（令和2年度まで）

豪雨対策・地震対策・長寿命化対策等ため池整備事業の一体的な実施への支援。

代替水源の確保に伴うため池の統廃合への定額助成。

農業水利施設の危険個所の把握・優先度に応じた安全施設の整備への定額助成（令和2年度まで）

○農業水路等長寿命化・防災減災事業

農業水利施設の機能を発揮させるため、長寿命化対策及び防災減災対策を支援。

ハザードマップ作成、ため池の保全・管理体制の構築への定額助成（令和2年度まで）

また、機能診断・耐震照査、計画策定に要する費用及び機動的な防災減災対策としてため池の統廃合等実施への定額助成。

○土地改良区体制強化事業

複式簿記導入に係る指導・研修、小水力発電施設の維持管理の研修等に対する定額助成。また、統合整備強化対策として土地改良区連合の設立への支援。

山南宮農組合特集

～農産物加工場を建設(惣菜・ジャム等の生産・販売)～

女性達が営む農産物加工部会では、好評の冷凍猪ハンバーグの他、椎茸佃煮、梅干し、イチジクジャムなどの瓶詰加工食品を製造販売している。

近年、地元産の無農薬栽培の大豆を使った「味噌」や原木栽培の「干しシイタケ」、「高冷地野菜」等の乾物加工食品のニーズが増加傾向にある。

現在の加工場が手狭になったため、昨年度から棚田地域等保全活動支援事業により建築資材の提供を受け、地元関係者が手造りで新しい農産物加工場を建設中である。



手造りで建設中の農産物加工場



女性達も建築作業に従事



加工食品の製造

多面的機能支払交付金に係る抽出指導実施

香川県多面的機能発揮促進協議会は業務の一環として、令和元年度は68活動組織に対し抽出指導を実施した。この業務は平成27年度から5年計画で実施しており、今年度ですべての活動組織の指導を終えた。

抽出指導一覧表		
管内	市町	組織数
東 讃	3市1町	20
小 豆	2町	2
中 讃	2市5町	32
西 讃	2市	14
計		68



最終年度を迎える活動組織については、「地域資源保全管理構想」の作成について指導するとともに、次年度継続の推進を行った。

～土地改良区だより～

男井間池土地改良区は、昭和24年制定の土地改良法に基づき設立許可申請を行い、昭和27年8月30日県下86番目の土地改良区として設立をみた。

本地域は、三木町の高速道路南、香川大学医学部の南東にある三木町最大のため池「男井間池」の南を流れる新川に沿った両岸に展開する水田地帯である。

その用水源となる男井間池は東側の女井間池と並んで一対の池を形作っており、昔は「雄沼」と呼ばれ、池戸という地名も池の辺にあったことからきていると言われている。池の創築は、元慶以前で、大宝より弘仁に亘る干害が頻発していたころではないかと推定され、今から1200年以上前と言われている。

男井間池の流域面積は極めて狭小であるため、池水を確保するためには、川水を源水として掛井手を通して取水する方法がとられていた。しかし、この掛井手は、長く、しかも傾斜が緩やかであることから、漏水など事故が各所で続出して十分な水を得ることができなかつたため、農民は大変な労力と時間を費やしていた。

こうした農民の苦勞を見かねた井上村の溝口恒八は、掛井手の水源を平木川（新川）に変更することを計画し、天明5年（1785年）に長さ958間の掛井手の新設を藩主松平公に出願し、許可を得て着工同年11月工事完成した。

昭和24年には、新川の余水を地下埋設管で導水し、機械揚水施設が完成、貯水確保の威力を発揮するとともに、平成元年には、新川沿岸用水路工事の完成で香川用水の通水が開始されたことにより、苦勞して構築、変更、改修、管理してきた掛井手からの集水も不要となった。

男井間池は県内でも満濃池に次ぐ歴史のあるため池であり、昭和53年度に県営老朽ため池整備事業として堤体、樋管、余水吐等の全面改修に着手し、57年2月その全工事が完成した。令和4年度には土地改良施設維持管理適正化事業で1号堰及び揚水機の改修を予定するなど、土地改良施設の適正な維持管理を行うとともに、明治21年に取り決められた男井間池水掛規約証を元とした水利慣行を継承し、長く後世に受け継いでいくため努力していく所存である。

男井間池土地改良区



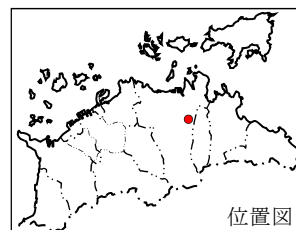
男井間池



浦川 淳一 理事長

土地改良区の概要

所在地 高松市亀田町163番地1
 受益面積：153.74ha（田153.74ha・畑 - ha・果樹地 - ha）
 組合員：450名（総代30名）
 理事：10名 監事：3名 職員：-名



位置図

会と催し

開催月日	会の名称	開催場所
12月11日	令和元年度香川県非補助土地改良事業等融資拡大担当者会	高松市
12月16日	令和元年度第2回香川県管理運営体制強化委員会管理専門指導員会	高松市
12月17日	まんのう町土地改良区統合整備推進協議会幹事会	まんのう町
12月17日	香川県農業再生協議会第25回総会	高松市
12月18日	本会令和元年度第2回監事会	高松市
12月23日	本会第185回理事会	高松市
12月23日	香川県農業会議常設審議委員会	高松市
1月9日	都道府県土地改良事業団体連合会事務責任者会議	東京都
1月9日	まんのう町土地改良区統合整備推進協議会幹事会	まんのう町

謹んで新年のご挨拶を申し上げます

令和二年 元旦

水土里ネット香川
香川県土地改良事業団体連合会

監事	監事	代表監事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	副会長	副会長	会長
尾鼻勝吉	藤澤武	森川光典	石井和義	薦田通夫	宮本欣貞	田中孝博	前川昌也	國重進	齋藤勝範	山本貞二	栗田隆義	野瀬康弘	三笠輝彦	組橋啓輔	大山茂樹	
仲南町土地改良区理事	高松市多肥土地改良区理事	観音寺市高室土地改良区理事	綾歌郡永富池土地改良区理事	豊稔池土地改良区理事	四箇池土地改良区理事	長白鳥土地改良区理事	坂出市江尻土地改良区理事	満濃池土地改良区理事	土地改良区理事	香川県三豊市三野町土地改良区理事	内海町安田三五郎池土地改良区理事	まんのう町長	学識経験者	香川県内場池土地改良区理事	香川用水土地改良区理事	さぬき市長

外職員一同